

2022 年度建築コスト管理士試験短文記述

【問題 1】

当協会は建築産業におけるコスト管理の役割を定義づけているが、そのうち、施工者側のコスト管理にはどのような役割があるのか、具体的に 150 文字から 200 文字以内で記述せよ。

(150 文字以上必須)

出典：新：建築コスト管理士ガイドブック

(3) 施工者支援としてのコスト管理 P-2 1

3.5.2 受注者（施工者）側におけるコスト管理 P1 8 8

※出題内容に基づき下記のキーワード（アンダーライン）を加味し、150 から 200 文字以内で記述されていること。

(3) 施工者支援としてのコスト管理

施工者支援としてのコスト管理業務は①工事受注のための工事費の算定（見積）、②施工段階での原価管理である。一般には施工者組織内の積算担当者や現場管理者が行っている業務である。なお、コスト管理の詳細については、第 3 章を参照されたい。

3.5.2 受注者（施工者）側におけるコスト管理

受注者側（ここではゼネコンを例にとる）におけるコスト管理は、施工段階においては一般的に原価管理と呼ばれ、実態としては利益管理となる。請負金額決定後に作成された実行予算にもとづいて、支出を管理し低減させることで利益の増大を図る。また、変更・追加による請負金額と利益の拡大も大きな柱となる。この段階においては、受注前におけるコスト管理の主役であった積算部門から、工事部門へとコスト管理の主体が移行することが一般的である。近年は、多くのゼネコンにおいて、積算部門とともに工事部門、調達部門などの参画による全社的な受注前コスト管理体制が構築されていることもあり、社内におけるプレイヤーの交代は比較的スムーズに行われる。建築コスト管理士の業務領域として認識されていないくらいはあるが、発注者側・施工者側の立場に関わらず、施工段階における施工者側の原価管理は重要な企業活動であり、十分理解しておく必要がある。

【問題2】

建設プロジェクトにおけるコストに関わるリスクについて発注者・設計監理者側の建築コスト管理士が行うべき、計画・設計段階でのリスク対策を具体的に150文字から200文字以内で記述せよ。

(150文字以上必須)

出典：新☆建築コスト管理士ガイドブック

(5) 建設プロジェクトにおけるコストに関わるリスク

2) 発注者・設計監理者側の建築コスト管理士が行うリスク対策 P-299

※出題内容に基づき下記のキーワード（アンダーライン）を加味し、150 から 200 文字以内で記述されていること。

① 計画・設計段階

コスト増のリスク対策上最も重要な段階である。計画段階から連続して概算コストを算出し、工事費のモニタリングを行うことにより、リスクを小さくすることが必要となる。

- ・ 事業性のチェックは、社会情勢の動向も踏まえ、継続的に行う。
- ・ 計画内容と建設予算の整合性の確認を連続的に行う。
- ・ 建設市場や資材・労務の市場価格を把握し、概算の見直しを行い設計にフィードバックする。
- ・ 施工者選定方法もコスト変動要因の1つであるので、早い段階で発注戦略を立て、施工者選定方法に伴う変動要素を概算コストに反映させる。
- ・ 発注者の設計内容変更要求・追加要求に対しては、増額の概算を添付し、全体コストの確認を行い、手戻り作業を少なくする。
- ・ 各段階で必要なコンテンジェンシー（予備費）を確保する。

【問題3】

建築コスト管理士として遵守しなければならない倫理は非常に重要である。当協会は「建築コスト管理士倫理要綱」において建築コスト管理士が遵守する倫理を規定している。では、建築コスト管理士として遵守せねばならない倫理を箇条書きにて5つ以上、具体的に150文字から200文字以内で記述せよ。

(150文字以上必須)

出典：新・建築コスト管理士ガイドブック
建築コスト管理士倫理要項 P17

※出題内容に基づき下記の項目を加味し、150 から 200 文字以内で記述されていること。

(法令などの遵守)

一、建築コスト管理士は、法令などを遵守するとともに、建築コスト管理士認定事業にかかる認定規程、実施要領等を守る。

(専門技術の保持)

二、建築コスト管理士は、常に幅広い知識と技術を維持し、依頼者のよきパートナーとして、業務にあたる。

(公正、中立性の保持)

三、建築コスト管理士は、建築のライフサイクル全般において、重要なコストを取り扱う専門技術者の特殊性に鑑み、業務を行うに当たっては公正、中立性を保持する。

(秘密の保持)

四、建築コスト管理士は、職務上知り得た秘密を正当な理由なく他に漏らしてはならない。

(公正な競争)

五、建築コスト管理士は、自己のサービスの真価によって専門職としての名声を築き、客観的な根拠のない事実に基づき他の専門技術者に対し中傷や誹謗など業務の妨げをしない。

(自己の啓発)

六、建築コスト管理士は、技術専門職の名誉、誠実及び尊厳を高く掲げ、かつ増進するように努める。

(専門技術者間の協力)

七、建築コスト管理士は、他の専門技術者と協力して業務を行うときは、お互いの業務の分担と責任を明確に合意したうえで、相互に信頼をもって業務を遂行する。

【問題4】

発注者側の要求により、標準的な工期（適正工期）を短縮せざるを得ない場合、どのような方策が検討されるか、3つ以上の項目をあげ、建設コストへの影響を、具体的に150文字から200文字以内で記述せよ。

（150文字以上必須）

出典：新・建築コスト管理士ガイドブック
4・3 工程計画とコスト P264～266

※出題内容に基づき下記の項目を加味し、150 から 200 文字以内で記述されていること。

適正工期を設定したうえで、竣工目標期日（指定工期）、あるいは一定期日までの出来高条件などのプロジェクト与条件（マイルストーン）により、工程計画を再度修正する。一般的には、工期を短縮する場合が多く、以下のような方策が検討される。

- ① 建物規模を考慮して、1日に投入される労務者数を増やす。（型枠工事、鉄筋工事、仕上工事など）
- ② 敷地条件を考慮して、1日に投入される施工機械台数を増やす。（土工事、杭工事、鉄骨建方など）
- ③ 作業パッケージ間の工程をラップさせる。上下階同時施工を行う。（逆打工法、二段打工法など）
- ④ 構工法を変更する。（SRC造・RC造をS造に、RC造をPC造に変更など）
- ⑤ 作業可能日数を増やす。（交代要員を確保するなどして休日も作業するなど。ただし、人員不足あるいは近隣協定により困難な場合が多い。）
- ⑥ 作業時間を増やす。（交代要員を確保するなどして1日10時間、あるいは24時間など。ただし、人員不足あるいは近隣協定により困難な場合が多い。）

上記の工期短縮策に対し、建設コストは以下のように変化することが一般的である。

- ① 労務者数の増加に対しては、無理して人数を集めることにより、応援割増し単価が発生する。ただし、労務に余剰感がある場合には影響が少ない。（上記①に対応）
- ② 施工機械増加に対しては、機械運搬費および組立解体費が増加する。（上記②に対応）
- ③ 逆打工法などの場合、あるいは構工法変更の場合、施工手順の変更に伴う種々の新しい工事の発生と、従来の工事の一部削減によりコストが変動する。（上記③④に対応）
- ④ 1か月の作業日数、1日の作業時間を増やすことにより、労務単価が上昇する。（夜間単価な

ど) また、24時間体制で夜食などの特別経費が必要な場合もある。(上記⑤⑥に対応)

⑤ 工期の短縮により、共通仮設、現場管理費にも増額要因と減額要因が発生する。日々発生する費用(資機材損料、家賃・水道光熱費など、施工管理人件費、事務費など)が減少する一方、資機材投入量増加、施工管理要員の増員などの増額要因もある。また、変動費(清掃片付費、塵芥処分費、はつり費など)は、いわゆる突貫工事では増加する傾向にあり、構工法の変更(S造、PC造など)においては、減少する傾向にある。(上記全体に対応)

【問題5】

建築工事に用いられる内訳書について「建築工事内訳書標準書式」に定められている「工種別内訳書標準書式」と「部分別内訳書標準書式」のそれぞれ特徴について、具体的に150文字から200文字以内で記述せよ。

(150文字以上必須)

出典：建築積算士ガイドブック

6.15.2 内訳書の作成にあたって

(1)内訳書の主な役割

(2)工種別方式と部分別方式の特徴

※出題内容に基づき下記のキーワード(アンダーライン)を加味し、150 から 200 文字以内で記述されていること。

「工種別内訳書標準書式」は工事の施工プロセスに整合した科目順序で構成された内訳書であり、専門工事会社(職種)別に細目の把握がしやすい、現場の実行予算作成や資材の購入計画に使いやすいという特徴がある。

「部分別内訳書標準書式」は仮設や土工・地業、躯体や仕上げ、設備等の部分別に構成された内訳書であり、部位毎の価格把握ができることから概算コストを算出する時の書式として使いやすいという特徴がある。(195文字)